

「震災遺構検討会議 (大川小学校旧校舎)」の結果概要

平成29年3月28日

大川小学校旧校舎に関する
震災遺構検討会議(第5回)資料

震災遺構検討会議の議題

第1回

- (1)「震災遺構検討会議」の役割・スケジュール
- (2)「震災遺構整備計画」の枠組み(案)
- (3)大川小学校旧校舎の現況と震災遺構整備等に関する各種情報
- (4)震災遺構整備等に関する意見・意向

第2回

- (1)第1回「震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)」を振り返る
- (2)現地視察結果を確認・共有する
- (3)大川小学校旧校舎の現況と震災遺構整備等に関する情報を共有する
- (4)会議の進め方とスケジュールを確認・共有する
- (5)震災遺構(大川小学校旧校舎)整備等に関して協議する

震災遺構検討会議の議題

第3回

- (1)これまでの「震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)」を振り返る
- (2)震災遺構(大川小学校旧校舎)の整備等に関して協議する

第4回

- (1)これまでの「震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)」を振り返る
- (2)震災遺構(大川小学校旧校舎)の整備等に関して協議する

意見の振り返り

第1回

- 意見は、「整備する周辺施設」、「整備する 運営体制」に概ね集約された。
- その他、「整備をする際に考慮すること」、「伝承・教育の方法」、「伝承・教育の内容」などについて意見を交換した。

第2回

- 第1回で出された意見を基に、「整備する周辺施設」、「何の為に残すのか・何を伝えるか」について意見を交換した。

意見の振り返り

第3回

- これまで出された意見を基に、「旧校舎及び敷地等に関する整備計画ゾーニング」について意見を交換した。

第4回

- これまで出された意見を基に、「旧校舎、周辺施設(駐車場、管理棟、展示スペース)の整備方針等」について意見を交換した。

意見の分類

1. 整備する周辺施設
2. 整備する運営体制
3. 整備をする際に考慮すべきこと
4. 伝承・教育の方法
5. 伝承・教育の内容
6. 何の為に残すのか・何を伝えるか

1. 整備する周辺施設

整備する
周辺施設

慰霊碑、慰霊碑に隣接されている像、建築物、トイレ、周辺道路、駐車場、周辺の公園化、これらを整備する

大川小旧校舎は全保存を前提に、周囲の視察者の駐車場、導線、校舎への立ち入り可否、立ち入る場合に必要なる柵などの補強、案内看板、慰霊碑の配置場所等を整備する

追悼・鎮魂のための静かな(厳肅な)空間を整備する

市の復興協議会からの絵をたたき台として活かす

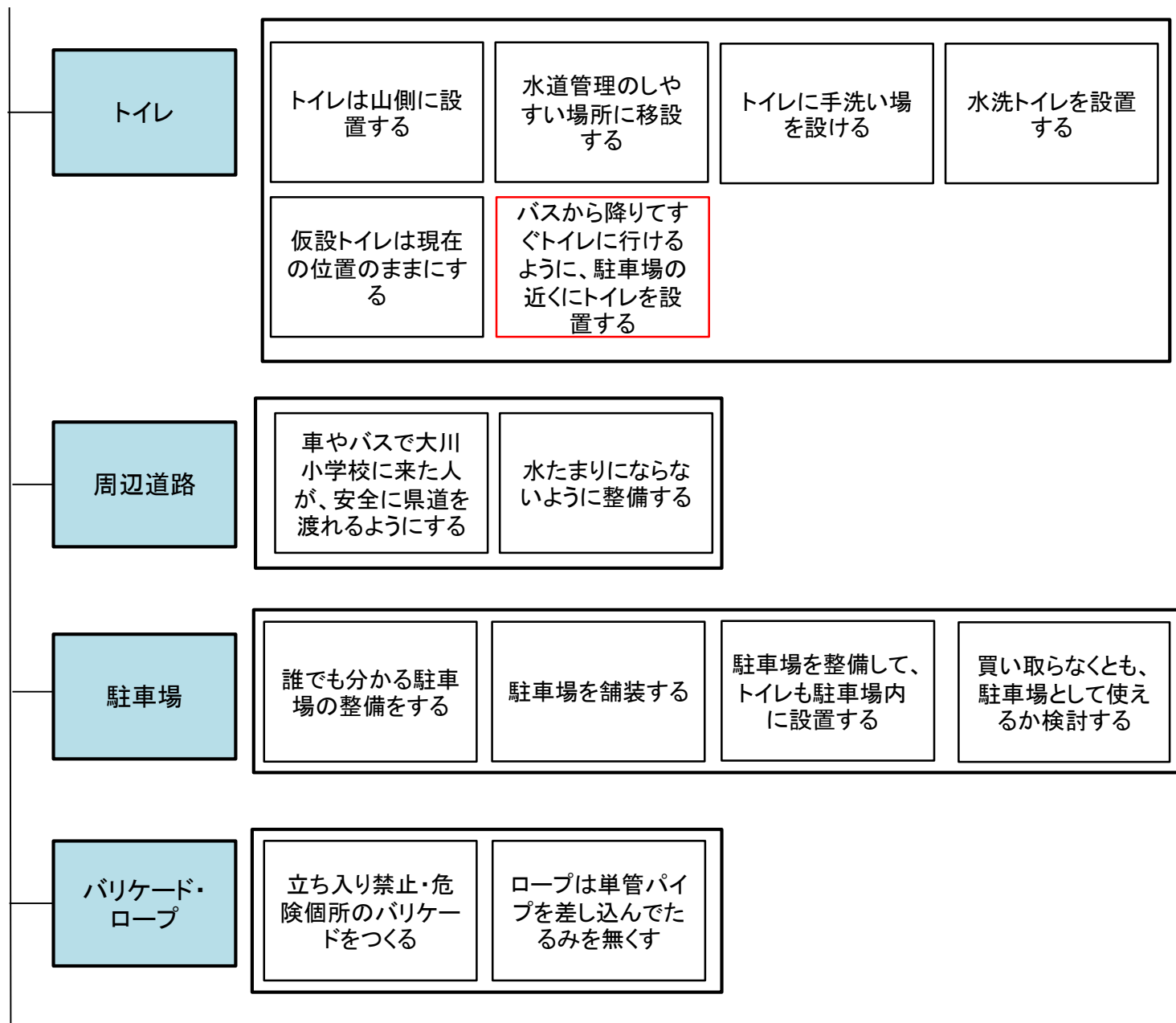
二カ所の慰霊碑と隣接されている像・建築物、周辺の公園化といった整備をする

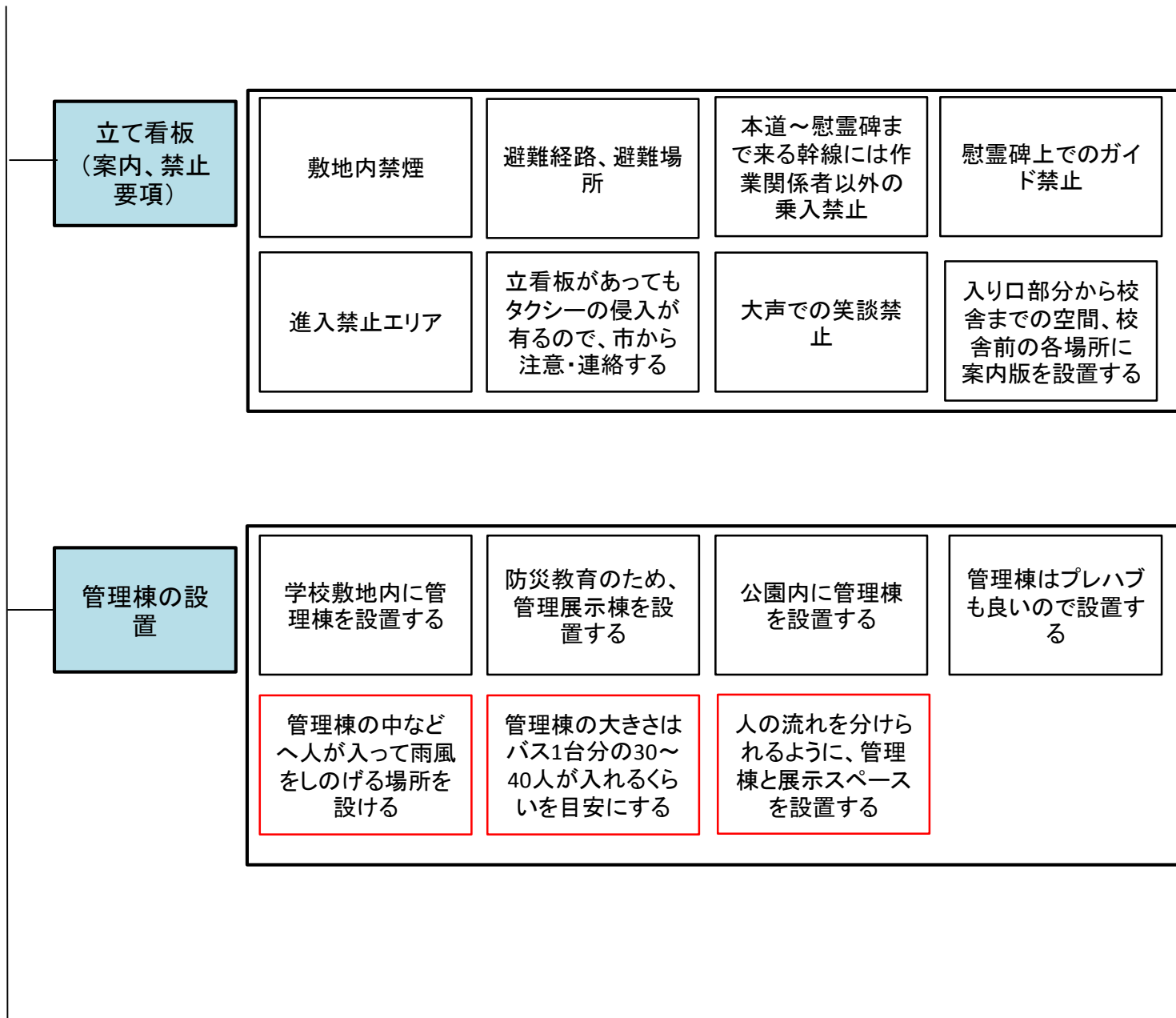
慰霊碑

慰霊碑の位置づけや設置場所を決める	静かに供養をしたい人のために、いつでも静かに子どもたちに語りかけられる場所に移転する	バスが慰霊碑の所に入らないように整備をする	人の導線を考慮して慰霊の場所を考える
慰霊碑上でのガイドを禁止する	本道から慰霊碑まで来る幹線には作業関係者以外の乗り入れを禁止する	慰霊碑前で大声での笑談を禁止する立て看板を立てる	来る人とは別の場所に慰霊碑を移設する
慰霊碑の設置場所は検討会議以外で決める	慰霊碑を別の場所に移動して伝承施設とは別にする	慰霊碑を安全な高い場所に移転する	慰霊碑の場所を遺族会の会議で決める
慰霊碑の移設時の費用負担を決める	遺族会で建立した慰霊碑は観音寺跡地へ移動する	早めに設置数を決めて、それぞれの位置づけや設置場所を決める	遺族分の慰霊碑は一般とは別にする
一般の人が手を合わせられる場所を設ける	慰霊碑は誰にも邪魔されない場所へ移設する		

モニュメント

モニュメントを作る	慰霊碑、モニュメントは遺族だけで拝める場所へ移転する	献花できる場を市で整備する
-----------	----------------------------	---------------



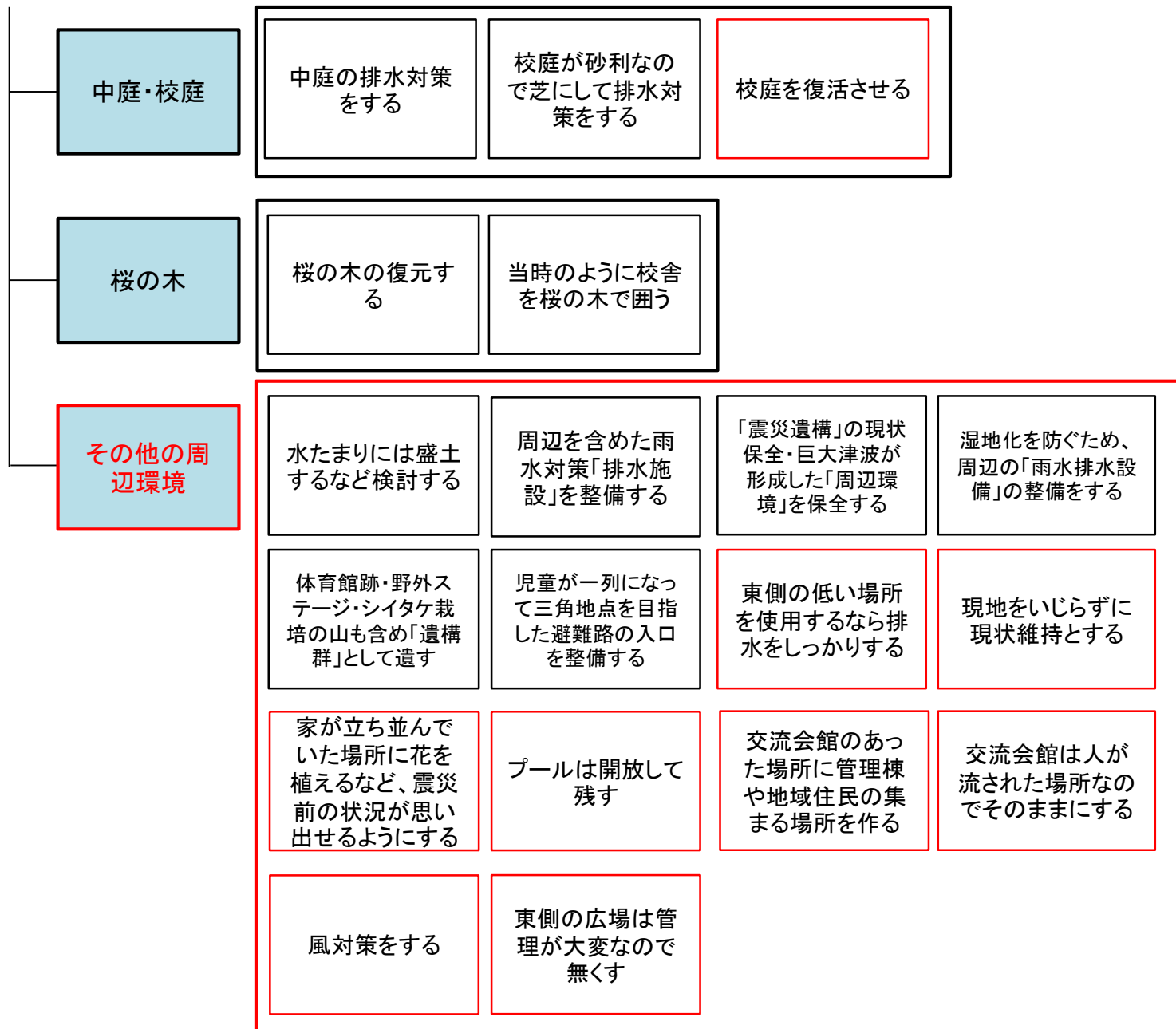


資料館・展示
パネル

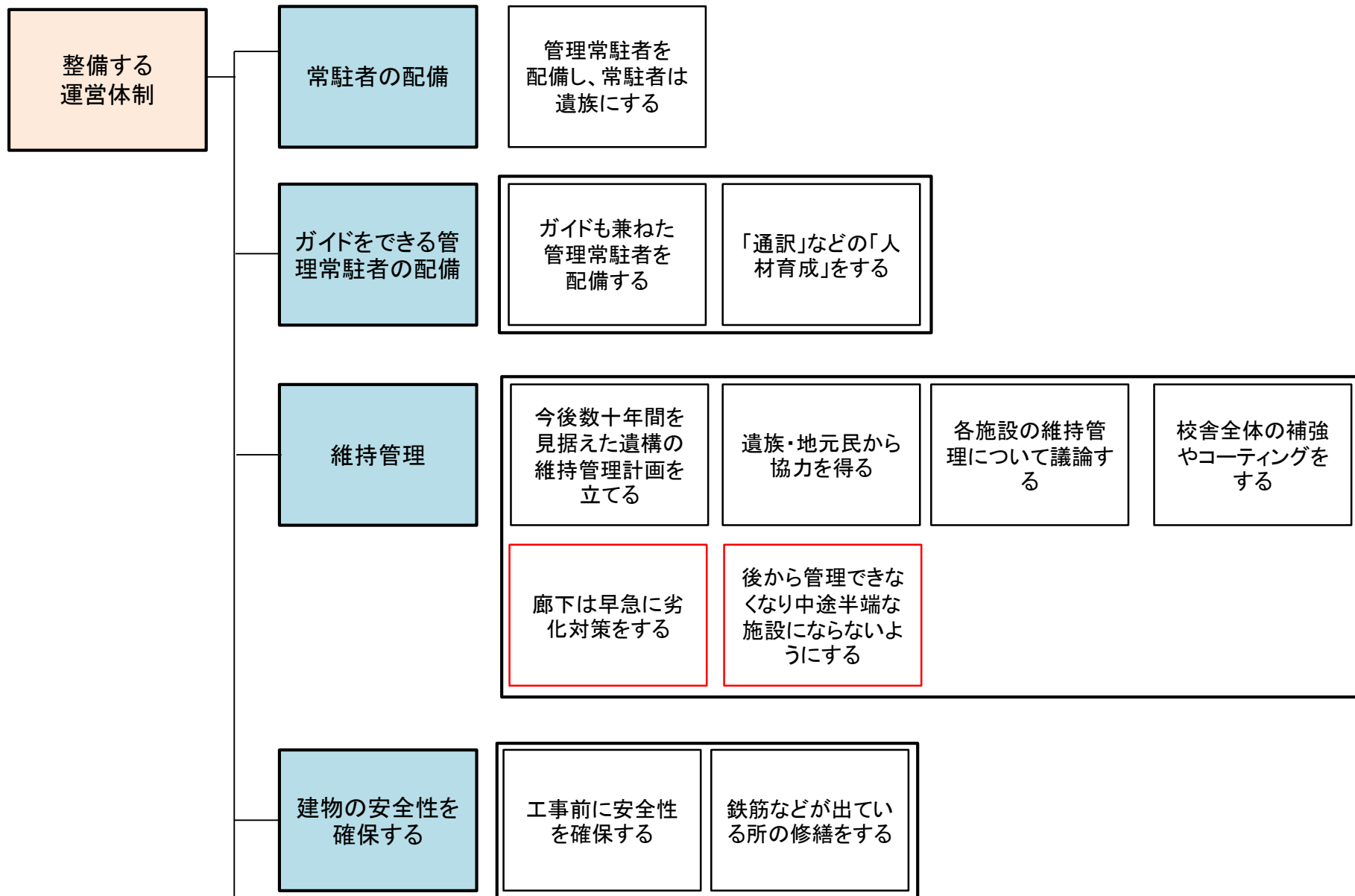
全てを知ることができる総合施設(情報資料館)を設置する	事実を伝える展示パネルを設置する	震災前後の写真などを掲示して、語り部がいなくてもわかるようにする	当日の子どもたちが避難したルートを表示する
当日の子どもたちが何をしたかを表示する	展示スペースを確保して伝承する場所を開設する	展示内容に、大川中学校を加える	釜谷・雄勝の模型を作り、建物があつたことを伝える
勾配や三角地帯にかけての道、区割りなどを再現し当時を振り返る	津波の高さは目で見てはっきり分かるようにする	現校舎を活用し「雨水対策」「電気設備」「災害対応設備」を考えた部屋を確保する	手作りの雰囲気での来客者への対応・企画・展示をする
震災前の街並み模型は南浜つなぐ館でも好評の為、震災前の街並みや暮らしも示す	数十年先まで伝えるために分かりやすい形で保存・展示する	震災において被災状況を物語る経緯を作成・展示する	時折ロープに掲示する写真等の資料を展示コーナーに掲示する
1年教室か2年教室に展示コーナーを設置する	大川小にも展示スペースを設ける	校舎の中も展示棟に利用する	

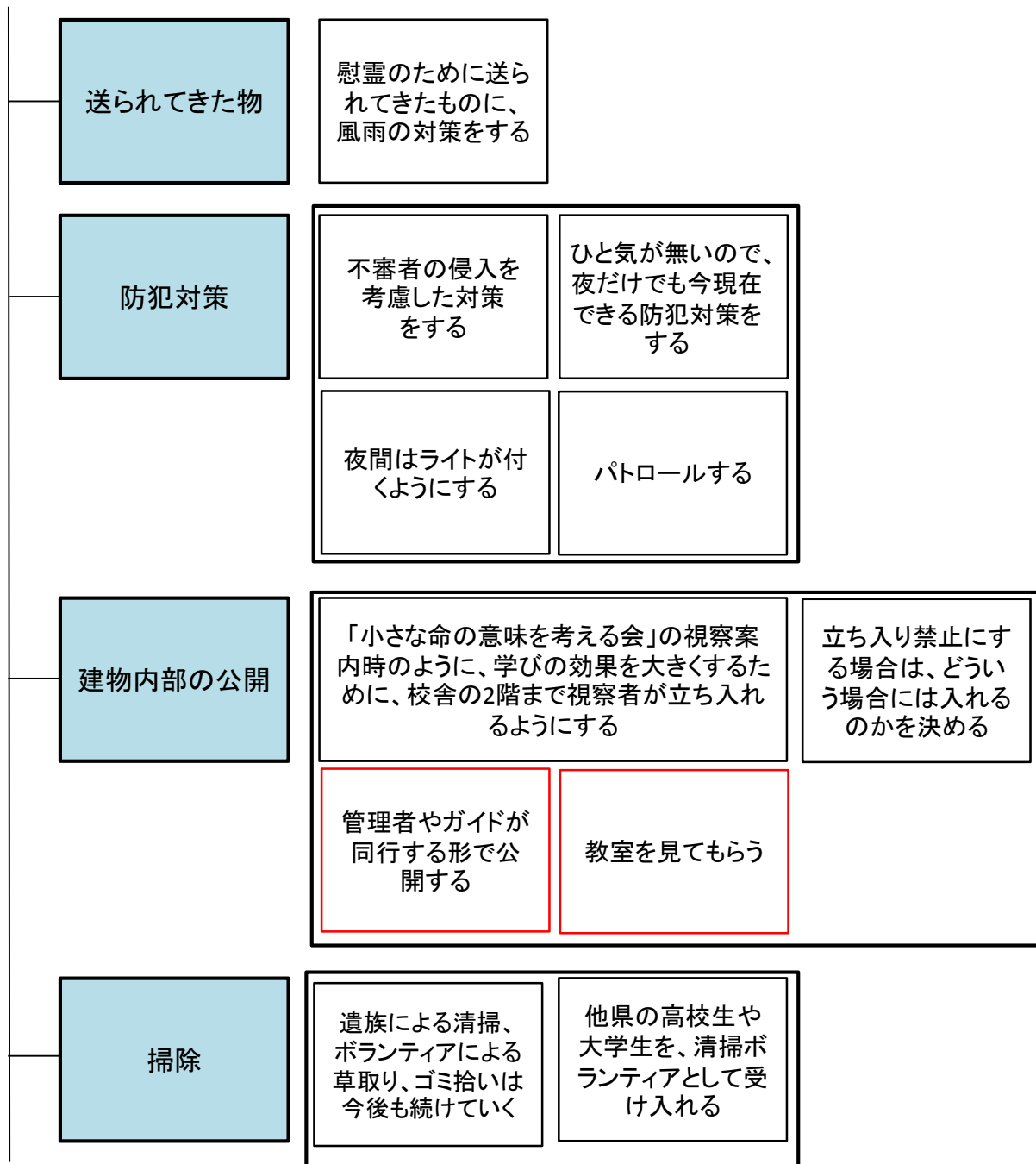
入口

震災遺構エリア利用者と静かに手を合わせられる場所への入口を分ける	社会的なインパクトを測るため、センサー・カウンターとソーラーパネルを設置する	訪問者をカウントできるようにする
----------------------------------	--	------------------



2. 整備する運営体制





発信方法

市外の訪問者のために、石巻市以外の他被災地の施設や各場所の役割を明確にする

「大川小」「門脇小」「復興祈念公園」など、それぞれの場所の役割について発信する

土で盛っただけの堤防は砂で溶けたという、河川遡上津波の危険性を発信する

各所で学んでほしい内容や発信方法・目的について議論する

観光バス対策

観光バスが入って来ないようにする

慰霊碑へのバスでの来訪者の駐車対策する

市での防火対策

市での防火対策を考える

慰霊碑に訪れた方への対応について遺族会とも相談する

「放送設備」を整備する

ハザードマップ

石巻地域におけるハザードマップの更新有無を確認する

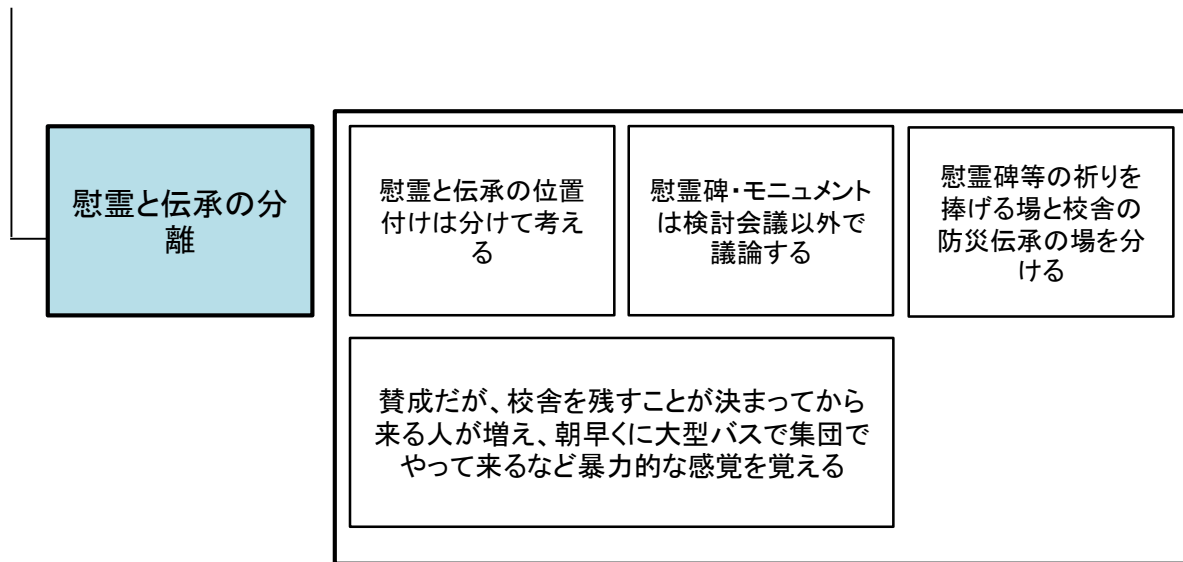
津波の規模ごとの浸水予測をする

ルールづくり

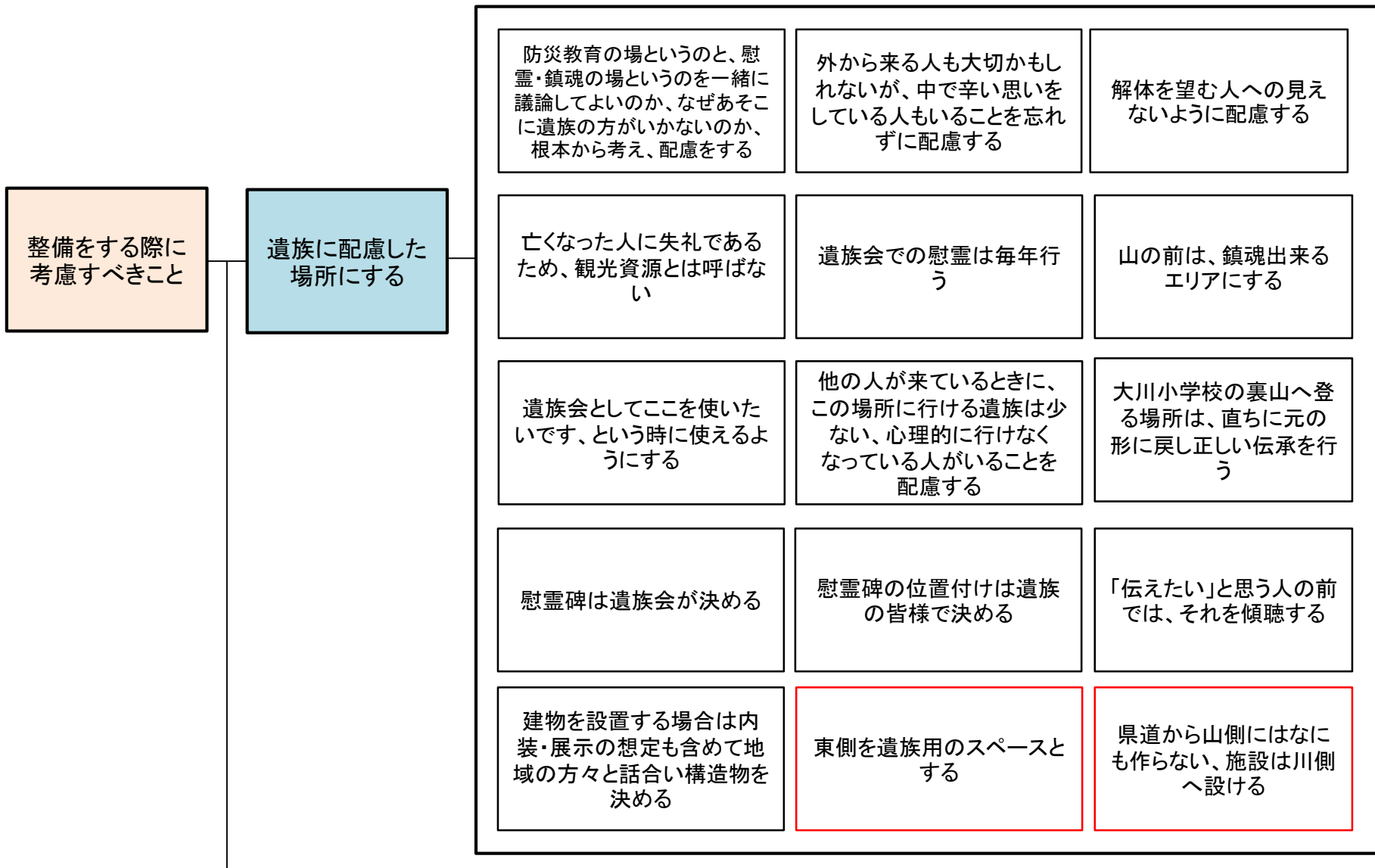
管理人やガイドが同行するルールを設け、校舎を公開する

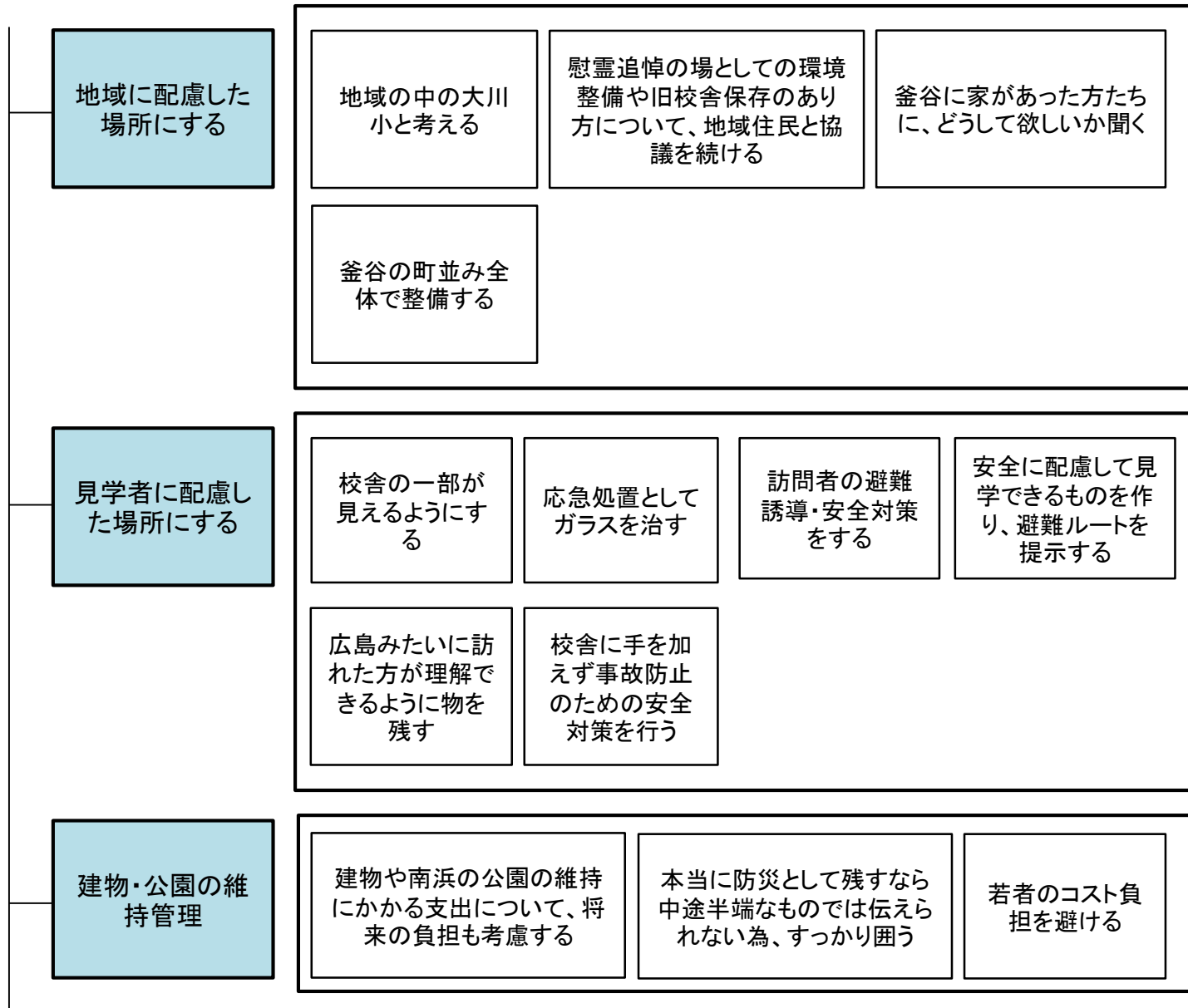
校舎を全面公開するためのルールを作る

案内を申し込んだ場合だけ公開するルールを作成する



3. 整備をする際に考慮すべきこと





その他

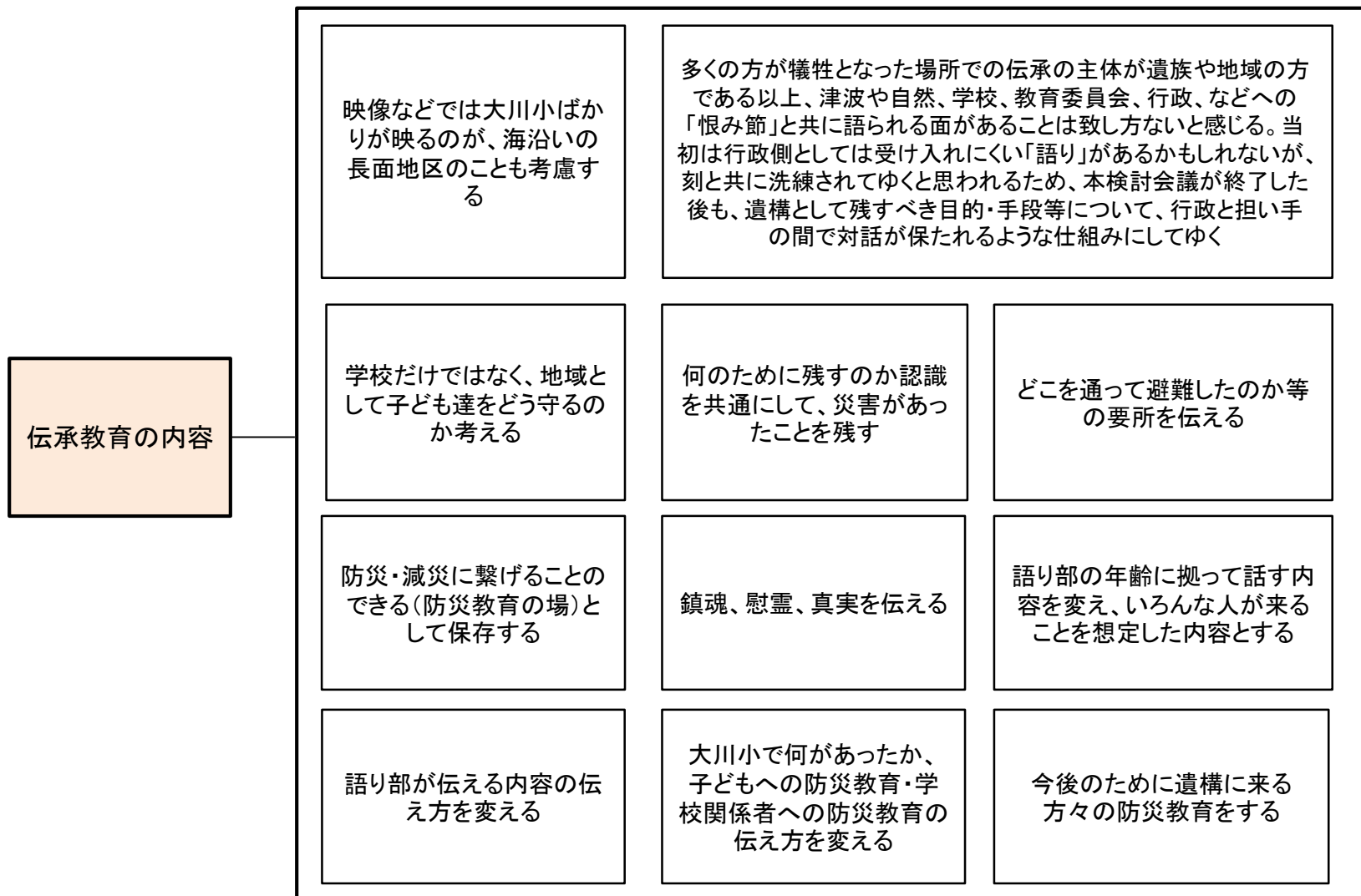
遺族・地域住民としての思いを記録して伝える	現状のまま残す	保存～手を入れるまでの間の対策をする
校舎についての床面・校舎の渡り廊下を今後守るのか、風化を防ぐのかといった中身の話をする	ゾーニングの方法・具体案を考える	保存する建物と慰霊を分けて議論を進める
学校・教育・行政は何をすべきか整理する	警報が出たときに、来ている方が逃げる経路・方法がわかるように対処する	「ユネスコ」の教育遺産登録を目指す
駐車場にすることを検討しているエリアは、買い上げられていないので、整備が出来ないのではないか	早い段階で予算上の制約を共有し、前向きな議論をする	大川小の本格的な整備までの間は管理棟兼展示スペースのような仮置き施設があると良い
中庭・名前のシールなどは震災前の学校や地域の様子を伝える部分として整備に反映する	石巻の津波火災の起きた背景の科学的実証も含めた「見せ方・残し方」をする	新たな施設を作ること自体が「大惨事」の現場としてそぐわなくなり、静かな川沿いの農村地帯における「祈り」の場としての雰囲気台無しにしている
大川小学校も出来る限り現状のまま残して行ける方向で検討する	大川小学校は、学びの場として有効利用する	
地元人・外部の方の両方の感情面を配慮した形の保存をする	地元の人への配慮と、外部の方には悲慘を伝える為のリアルティーさを両立させる	プール、体育館跡、屋外ステージ、廊下など全部残す

4. 伝承・教育の方法



<p>副読本など教材化の検討を進める</p>	<p>地域性の違う人に、マニュアルを通した防災教育を行う</p>	<p>個別検証による普遍的な防災教育をする</p>	<p>校舎、廊下、プールなど全部公開する</p>
<p>卒業生・若い世代を視察へ参加させる</p>	<p>逃げるだけではなく、防災教育のために自分事で捉えさせる</p>	<p>門小・大川小は教育委員会とタイアップして伝承を考える</p>	<p>津波の怖さを知るために、3・4年生教室を公開する</p>
<p>校舎は中へ入れるようにする</p>	<p>見学コースを設定する</p>	<p>管理棟を設置して、校舎の中に入って見てもらう</p>	<p>神戸の震災があつて防災教育と言われてきたが伝わっていなかったため、大川小で伝えていく</p>
<p>防災的に大切なため、校舎を見せる</p>	<p>クリエイターに依頼して「生」を伝え、希望をもって帰ってもらえる施設にする</p>	<p>アニメを活用してもらうことで世界にも伝える</p>	

5. 伝承・教育の内容



<p>追波湾から3、4キロも内陸に位置する『大川小学校』の被災状況と「土地の履歴」を学術的に分析し、「遡上津波」の被害の実態を考察する</p>	<p>出来れば周りの外壁も、元のようにし、学童の避難経路を示す</p>	<p>震災当時どんなことがあったか目で見て感じてもらう場所にする</p>
<p>卒業生の声、若い世代の声を反映させる</p>	<p>「命」を守る行動は、学校の教職員・個人はもとより「家族」「地域」も一緒に発災前から考えるべきことと伝える</p>	<p>視察・研修で訪れる国内外の教育関係者が、大川小から何を感じ、何を学んでいるのか調査する</p>
<p>「最悪」の事態を回避するために「情報整理・決断」することの大切さを学べる</p>	<p>伝承の理念、大川小の位置付けをはっきりして議論する</p>	<p>防災教育として自分の身を守る意識付けを行う</p>
<p>今後起こりうる南海トラフに対し、大川からいち早く逃げることを伝える</p>	<p>震災前の様子がわかるように情報提供をする</p>	<p>生活していた場所であるとわかるような残し方をする</p>

6. 何の為に残すのか・何を伝えるか



<p>釜谷の避難実態を残す</p>	<p>避難所として学校を残す</p>	<p>今後同じような悲しみ苦しみを発生させないように、後世に、全国に、全世界へ発信して伝える</p>
<p>津波の力を見て覚えてもらう</p>	<p>三角地帯へ行ったという避難方法は間違っていたという意味合いを形にして残す</p>	<p>防災教育の場所として校舎、体育館を残す</p>
<p>学校を残すことによる伝承の意味合いや効果(防災になるのか。中を見せて何になるのか。残すことはいいけれど果たして防災になるのか。何年もつのか。それまで金をかけていくのか。)が腑に落ちない</p>		<p>20mの防波堤を作らなくとも逃げる意識を伝え、亡くなった方の犠牲が意味のあるものとなる場所にする</p>
<p>中越は建物強化・大川は地震と津波意識を高めること、といった震災遺構の意味合いの違いを伝える</p>	<p>大川小の校舎を見ることで災害時の意識を高める</p>	<p>鎮魂のエリアは当時を振り返られるようにいじらないで形として残し、真実を伝える</p>
<p>頭の片隅に大川小のことがあればすぐに行動できる</p>	<p>川沿いの「大川地区」「北上地区」全体が被災し、地区民に多くの犠牲者が出た「遡上津波」の恐ろしさを伝える</p>	<p>同じ過ちを繰り返さないよう、「大川小学校」の悲劇や「大川地区・北上地区」の津波の惨状を世界へ“発信”する</p>
<p>この場所全部が多くが亡くなった場所なので、学校はそのまま残す</p>	<p>既成事実の真実を明らかにしてから遺構について進める</p>	<p>集団移転等を完了してから遺構について決める</p>